

WebRelease 2

Ver.2.80

Index

<u>はじめに</u>	3
<u>WebReleaseが選ばれる理由</u>	6
<u>1. オペレーショナル・エクセレンス – 確かな「利便性」 –</u>	8
<u>2. エコノミクス – 優れた「経済性」 –</u>	21
<u>3. セキュリティ – 継続的で管理可能な「安全性」 –</u>	28
<u>4. パートナーエコシステム – Web発信を成功に導く「生態系」 –</u>	36
<u>動作環境</u>	39
<u>製品構成と価格</u>	44
<u>WebReleaseについてさらに詳しく</u>	48



WebReleaseとは

WebReleaseは国内では希少な、自社で構築や運用を請け負わないパッケージCMS専門ベンダーの株式会社フレームワークスソフトウェアが開発した国産CMSです。2000年7月の販売開始以来バージョンアップを重ねながら、現在も進化し続けています。

エンタープライズCMS

- 企業Webサイトの構築・運用を前提に開発されているので、承認や操作履歴、権限管理などの組織を支える機能が充実しています。
- 1万ページ超も実運用が可能な拡張性や、セキュリティ、バージョン互換性、確実な保守など、企業がシステムに求める要件に対応しています。

セキュリティ対策が容易な静的配信型

- CMSサーバとWebサーバを完全に分離できるので、WebサーバからCMSに不正侵入される危険がありません。
- WebサーバにCMSを設置する必要がないので、Webサーバ自体も外部からの攻撃に対して堅牢です。

カスタマイズ不要のパッケージタイプ

- エンタープライズCMSでは数少ない、カスタマイズや機能追加開発が不要なパッケージタイプなので、導入後はすぐに利用を開始できます。
- SaaSタイプとは違い、要件を満たせばクラウドでもオンプレミスでも、動作環境を自由に選ぶことができます。

CMSのライフサイクルコストを削減

- 開発不要のパッケージタイプ、安価なライセンス費、シンプルなサーバ構成やクラウド対応など、CMSの初期費用を削減できます。
- 保守費が安価でバージョンアップが容易、維持管理も低コストです。導入から運用までのCMSの総保有コストを低く抑えることができます。

豊富な運用実績

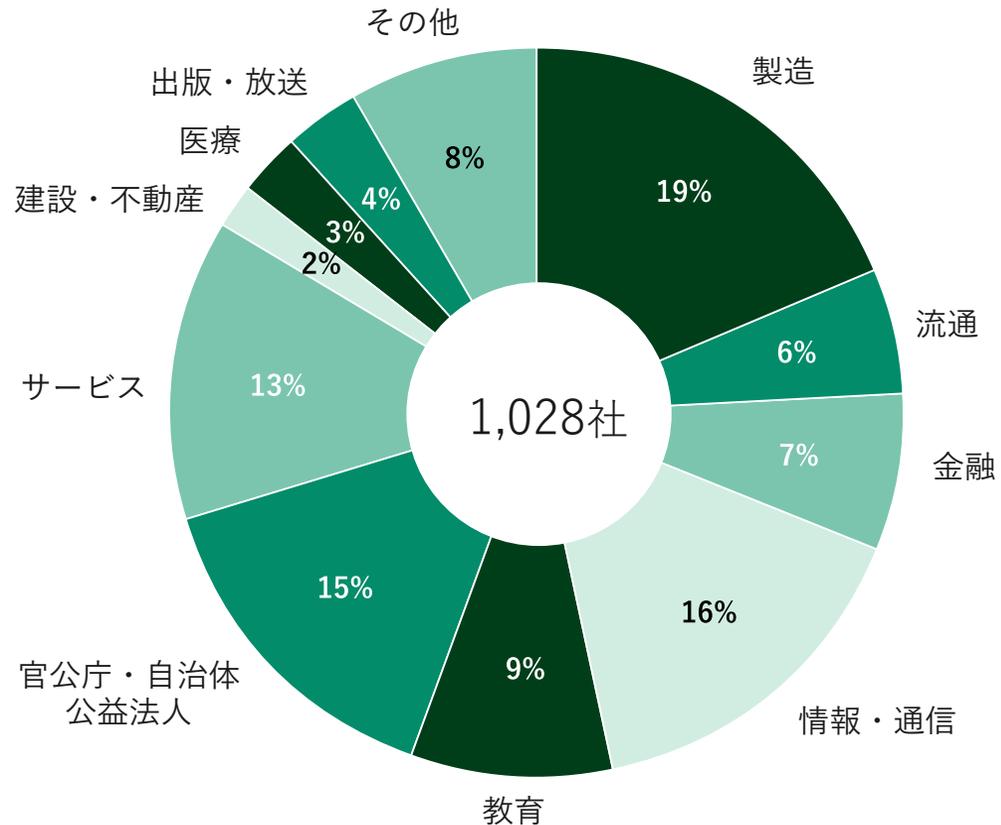
- セキュリティに厳しい金融機関や政府系研究機関、内部統制を重視する官公庁、中小から大手企業、大学など、幅広く採用されています。
- 5年以上ご利用が大多数、10年以上ご利用のお客様も少なくありません。長期間の利用でCMSへの初期投資をしっかりと回収できます。

豊富なパートナー

- 大手SIerやクラウド事業者、Web制作会社など、高い専門性と豊富な経験を兼ね備えたパートナー企業が導入から構築・運用までご支援します。
- 委託先を自由にお選びいただけますので、特定の業者に囲い込まれてしまうことはありません。



国内大手企業を中心に1000社超の導入実績

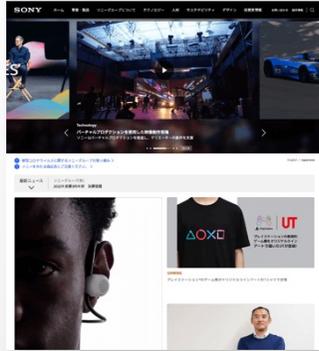


1,028社

2024年7月26日現在

- WebReleaseは、2000年7月のリリース以来、1,000社を超えるお客様にご採用いただいています。
- 製造業、金融機関、医療、官公庁、大学など、特定の業種や業態に限定されることなく、多様な分野の企業・組織のお客様がWebによる情報発信の基盤としてWebReleaseを活用しています。
- 全てがカスタマイズ無しに、パッケージそのまま導入されています。
- 近年はブログCMSやオープンソースCMS、他社の商用CMSなど、他CMSからの乗り換え事例が増えています。

導入事例



ソニーグループポータルサイト

2004年9月導入
2サイト約2万ページ



エスビー食品

2018年8月導入
30サイト1万ページ



ダイハツ工業 企業情報サイト

2016年7月導入
2サイト1500ページ



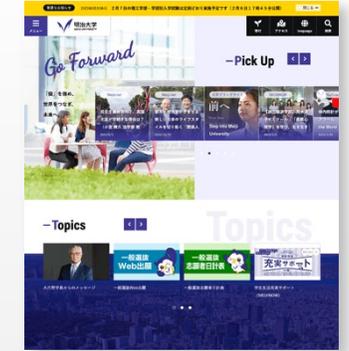
第一興商

2022年4月導入
企業サイト・DAM公式サイトほか
3サイト約3万ページ



公益法人品川文化振興事業団

2022年6月導入
6サイト1300ページ



学校法人 明治大学

2012年11月導入
5サイト約2万ページ

そのほか様々な業種・業態のお客様にご活用いただいています。

- 大手銀行、投資信託、生損保、信販 / サービス案内
- 大手銀行 / 全拠点向けイントラネット
- 公共エネルギー / 個人向け・法人向けサービス紹介
- 通信 / 販売会社向け会員サイト
- 非上場精密機器メーカー / 多言語サイト

- 商業施設 / イベント情報
- 出版 / 書籍紹介
- 放送 / 番組紹介, データ放送コンテンツ更新
- アパレル / ECサイトカタログコンテンツ
- 輸入車ディーラー / 店舗iPadアプリのデータ更新

- 医療機関 / 施設案内
- 公立大学, 私立大学 / 公式サイト, 附属病院, 附属中高
- 独立行政法人 / 成果普及サイト など
- 官公庁、自治体、公益法人 / 公式サイト
ほか



WebReleaseが選ばれる理由

企業Webサイトの課題を解決する WebRelease 「4つの柱」



	従来課題	導入効果
 Webサイト責任者	<ul style="list-style-type: none"> ⚠ チャンネルや顧客接点ごとに運用が孤立、CMSもばらばら ⚠ Webサイトの乱立で、ブランドリスクも管理コストも増加 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ パッケージ標準で運用ルールを統一し、Webガバナンスを強化 ✓ CMS統合で一貫したブランディングと、構築・運用・保守の総コストを最適化
 Web担当者	<ul style="list-style-type: none"> ⚠ 更新作業が複雑、IT部門や制作会社に依頼しないとサイトを更新できない ⚠ コンテンツ管理が属人化、掲載もれ・不適切な表現やリンク切れが発生 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 簡便な操作で、現場スタッフが迅速かつ確実にコンテンツを公開できる ✓ CMSで標準化されたプロセスにより持続可能なコンテンツガバナンスを構築
 IT担当者	<ul style="list-style-type: none"> ⚠ CMSの脆弱性対応などメンテナンス業務が負担 ⚠ Webサイトへのサイバー攻撃や閲覧障害が不安 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 簡便なバージョンアップ機能、セキュリティと公開無停止に有利な静的配信型 ✓ 金融や公共で実績のある安全性や可用性対策のベストプラクティスを活用できる



1. オペレーショナル・エクセレンス

－ 確かな「**利便性**」 －



品質を損なわずに、より速く確実にWebサイトを提供するには？

	これまでのやり方	エンタープライズCMSでWeb発信の組織力を向上
体制	⚠ ワンオペや少人数でのサイト運営	✓ 全社横断による組織的なサイト運営
プロセス	⚠ 属人化、複雑化、形骸化した更新業務	✓ 更新業務の標準化、可視化、自動化
システム化の手段	⚠ ブログツールをカスタマイズ開発 → ツールを現行業務に合わせる	✓ エンタープライズCMSの標準機能 → 業務をパッケージに合わせる

エンタープライズCMS WebRelease を採用するメリットは？

- ブログにプラグインを追加して機能を補完するCMSと異なり、当初から企業Webサイトの運用を前提に開発されているので、異なる役割・専門性を持つ複数の管理者が協調して作業するための機能が充実しています。
- 2000年の発売開始から現在まで、顧客の要望を取り込みながら機能追加を重ねているため、先行ユーザの運用ノウハウがパッケージ化されています。

Web発信とWeb品質を支える標準機能

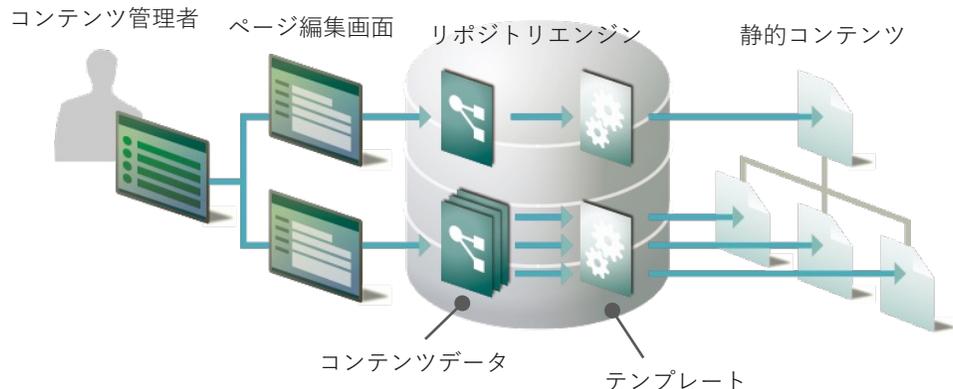
(1) テンプレート型 CMS

内製化で製作費削減と即時性向上を実現

全てのページはテンプレートを元にして生成されます。テンプレートとは同じ形をしたコンテンツを生成する雛形です。管理画面から入力されたコンテンツデータとテンプレートを合成し、静的なファイルを生成しWebサーバへ配信します。テンプレートにHTMLやCSSを記述しておくことで、専門知識無しに誰もがページを作成し公開することができます。

ガイドラインを遵守、サイト全体の品質を向上

デザインやアクセシビリティ等のガイドラインに準拠したソースコードをテンプレートに記述しておくことで、コンテンツ作成者がそれら専門知識無しに準拠したページを作成できるので、サイト全体の品質を高めることが容易になります。

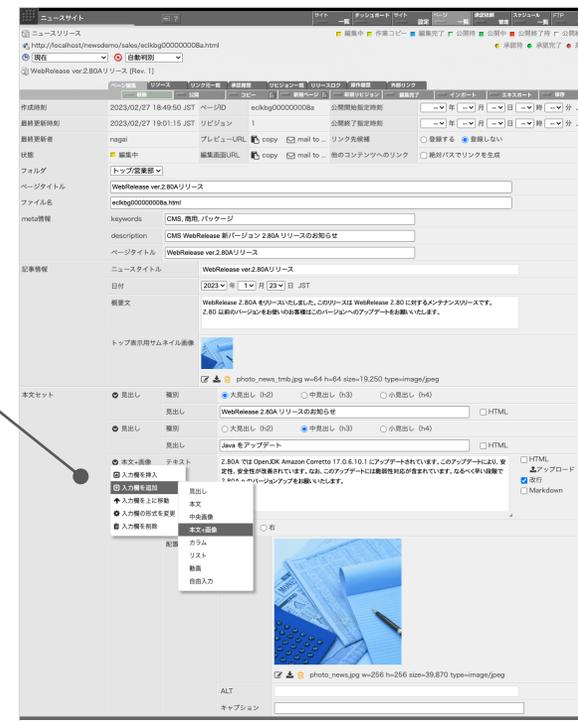
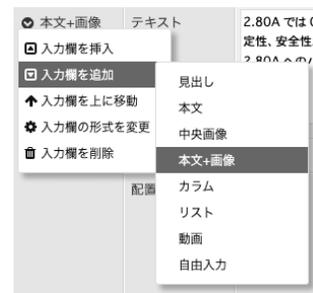


ブロック編集で柔軟性とガバナンス強化を両立

固定された入力項目への入力だけでなく、テキストや画像など様々な部品を選択し自由に並べながらページを作成する汎用的なテンプレートも作成できます。多様なレイアウトパターンに対応できる柔軟性と、テンプレート化によるWebサイトガバナンスの両立が可能です。

(例) ページ編集画面

部品を選んで入力欄を追加することができる



Web発信とWeb品質を支える標準機能

(2) 日時指定公開

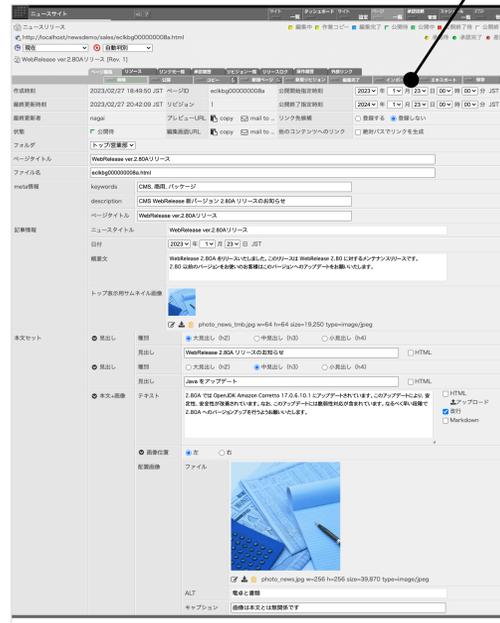
ページ毎に公開開始～終了を自動化

ページごとに公開開始と終了の日時を入力し、公開期間を設定することができます。公開サーバへの配信と削除の自動化が可能です。

公開開始指定時刻 2023年 1月 23日 00時 00分 JST

公開終了指定時刻 2024年 1月 23日 00時 00分 JST

(例) ページ編集画面



スケジュール一覧画面では、日時が設定されているページの公開・公開終了予定を一覧で表示します。何らかの原因で実行されなかった公開/公開終了はハイライト表示されます。

各ページの状態も表示されるので、マイルストーンに向けたページ制作の進捗状況の把握も可能となっています。

(例) スケジュール一覧画面

スケジュール時刻	タイトル	Rev.	操作	状態	最終更新者	最終更新時刻	公開開始指定時刻	公開終了指定時刻
2023/01/23 00:00	WebRelease ver.2.80Aリリース	1		公開中	nagai	02/27 20:42	2023/01/23 00:00	2024/01/23 00:00
2023/04/01 00:00	WebRelease2 Version 2.8 新機能のご紹介	4		公開中	nagai	02/27 17:32	2022/11/15 00:00	2023/04/01 00:00
2023/09/01 00:00	ケーススタディ：株式会社ウェブリリース	16		公開中	haraguchi	02/27 17:35	2022/09/01 00:00	2023/09/01 00:00
2024/01/04 09:00	役員人事および組織変更のお知らせ	3		公開中	aoyama	02/27 17:39	2023/01/04 09:00	2024/01/04 09:00
2024/01/23 00:00	WebRelease ver.2.80Aリリース	1		公開中	nagai	02/27 20:42	2023/01/23 00:00	2024/01/23 00:00

Web発信とWeb品質を支える標準機能

(3) サイトプレビュー

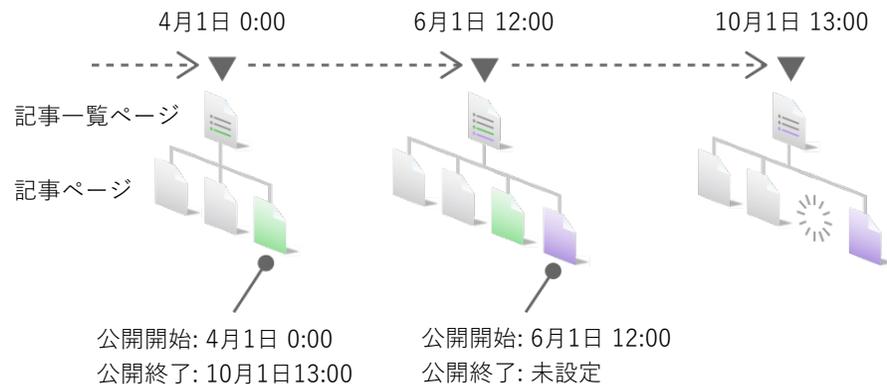
即時プレビュー

作成したページはいつでも即座にプレビューすることができます。事前の配信などの操作は必要ありません。プレビューで確認しながらページ作成を進めてゆくことができます。

サイト全体の未来プレビュー

プレビューの対象の日時を指定し、その日時のサイト全体の姿をリンク関係も含め詳細にチェックすることができます。複数の管理者がそれぞれ異なる日時で同時にプレビュー可能です。

指定した日時のサイト全体をプレビュー表示



モバイル実機プレビュー

管理画面に表示されたQRコードをスマートフォンで読み取り、プレビューを表示させることができます。

(例) ページ一覧画面

ページタイトル	Rev.	操作	状態	承認	最終更新者	最終更新時刻	公開開始指定時刻	公開終了指定時刻
トップ	15	0	0	0	admin	10/14 19:28	-	-
トップページ	3	0	0	0	admin	10/14 19:28	-	-
IR	3	0	0	0	sakai	02/27 17:25	2022/05/01 09:00	-
2022年3月期 決算短信	2	0	0	0	sakai	02/27 17:25	2022/05/01 09:00	-
株主総会のお知らせ 2022	4	0	0	0	shiotani	02/27 17:29	-	2022/12/30 00:00
業績予想の修正に関するお知らせ	15	0	0	0	sakai	02/27 17:27	2022/09/01 09:00	-
営業部	3	0	0	0	nagai	02/27 17:32	2022/11/15 00:00	2023/04/01 00:00
Web	2	0	0	0	naraguchi	02/27 17:35	2022/09/01 00:00	2023/09/01 00:00
ケー	2	0	0	0	naraguchi	02/27 17:37	2023/02/01 00:00	-
モノ	2	0	0	0	naraguchi	02/27 17:37	2023/02/01 00:00	-
広報部	2	0	0	0	naraguchi	02/27 17:37	2023/02/01 00:00	-
役員人事および組織変更のお知らせ	3	0	0	0	ayama	02/27 17:39	2023/01/04 09:00	2024/01/04 09:00
セキュリティ事業でサンプル社と提携	3	0	0	0	iwanaami	02/27 17:40	2023/01/19 12:00	-
common	6	0	0	0	naraguchi	02/27 17:35	2022/09/01 00:00	2023/09/01 00:00

Web発信とWeb品質を支える標準機能

(4) リビジョン管理

リビジョン管理

ページはリビジョンを管理できます。編集中のページは任意の時点でリビジョンを保存できます。一旦公開したページは自動的に書き込み禁止のリビジョンとして保存されるので、公開されたコンテンツのトレーサビリティを担保することができます。

リビジョンの復旧

保存したリビジョンを取り出して再公開できます。更新したページを元に戻したい場合にすぐに戻せます。ページを復旧すると、関連する全てのリンク関係も復旧されます。

(例) リビジョン一覧画面

タイトル	Rev.	操作	状態	承認	最終更新者	最終更新時刻	公開開始指定時刻	公開終了指定時刻
セキュリティ事業でサンプル社と提携	4				aoyama	02/27 18:07	2023/01/19 12:00	--
セキュリティ事業でサンプル社と提携	3				iwanami	02/27 17:40	2023/01/19 12:00	--
セキュリティ事業でウェブリリース社と提携	2				uchida	2016/01/18	2016/01/18 12:00	--
セキュリティ事業でウェブリリース社と提携	1				uchida	2016/01/18	2016/01/18 12:00	--

リビジョン比較

あるページの任意の二つのリビジョンを指定して、その差分を表示することができます。ページの要素比較、ソースの左右または上下比較、プレビュー比較など、様々な視点で表示することができます。

(例) リビジョン間差分比較

要素比較

ソース比較

プレビュー比較

Web発信とWeb品質を支える標準機能

(5) 公開承認

最大5段階までの承認フロー

複数の担当者がコンテンツをチェックすることで、事故を未然に防ぐことができます。厳重なチェックも可能にするため、最大で5段階までの承認フローを設定することができます。

簡易な設定画面

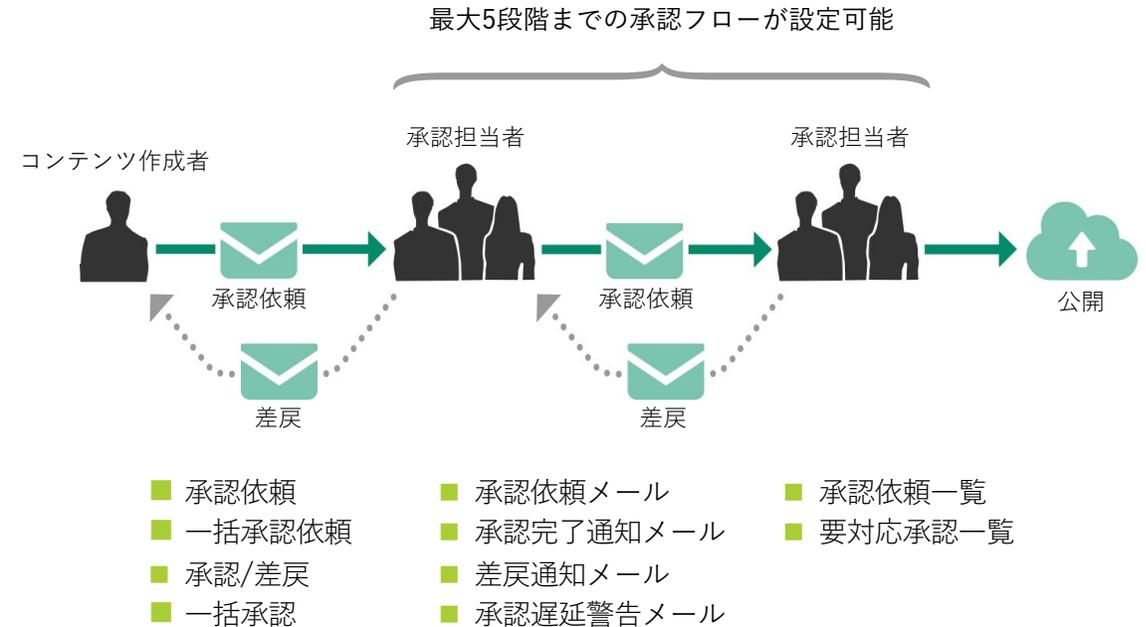
各承認ステップと承認の流れの設定は、全て管理画面の簡易な操作で可能、プログラミング等の知識は不要です。承認フローは幾つでも設定でき、緊急時などその時々状況に応じて承認フローを選択することも可能です。

通知メール自動送信

承認の依頼や完了通知のメールが自動送信されるので、公開申請の作成や回覧などの手間を省き、公開までの作業を効率化・迅速化できます。

承認状況の共有

進行中の承認を一覧表示する画面や遅延警告メールにより、進捗状況の管理や共有が容易になります。



Web発信とWeb品質を支える標準機能

(6) 外部リンクチェック

自動チェックで省力化、ミスや漏れを無くす

公開中のコンテンツについて、その中に含まれる外部リンクを抽出し、それらURLの有効性をチェックします。チェックの結果、アクセス不能なURLが見つかった場合には、管理画面に表示し管理者へメールで通知されます。

膨大な数のページに対して手作業でリンクをリストアップしたり、個々のリンクを定期的に目視でチェックする作業から解放されます。

継続的なチェックで品質を維持

1時間毎、24時間毎など、指定した間隔で定期的に外部リンクのチェックを実行します。ページ作成時だけでなく、継続的にチェックすることで、Webサイトをリンク切れのない状態に保つことができます。

(例) 外部リンクチェックの設定画面



(例) 外部リンクチェック結果画面

状態	操作	外部リンクURL	リンク切れ検出時刻	前回チェック時刻	次回チェック予定時刻
●	—	http://localhost/newsdemo/ir/sp/index.html	02/27 19:43:41	02/27 19:43:41	
●	—	http://localhost/newsdemo/pressrelease/sp/index.html	02/27 19:43:41	02/27 19:43:41	
●	—	http://localhost/newsdemo/sales/sp/index.html	02/27 19:43:41	02/27 19:43:41	
●	—	http://localhost/newsdemo/sp/index.html	02/27 19:43:41	02/27 19:43:41	
●	—	http://www.frameworks.co.jp/test/	02/27 14:02:45	02/27 19:43:41	
●	—	http://www.frameworks.co.jp/seminar/index.html		02/27 19:43:41	
●	—	http://www.google.com		02/27 19:43:41	
●	—	https://www.youtube.com/embed/4AZR8a5XVSs		02/27 19:43:41	

Web発信とWeb品質を支える標準機能

(7) 語句と文字のチェック

辞書に登録した語句・文字をもとにコンテンツをチェックすることができます。誤って不適切な語句や文字を使用したコンテンツを公開してしまうといった事故の防止や、社内用語や送り仮名などの表記の統一に役立ちます。文章チェック作業を効率化しながら、Webサイト全体のテキストコンテンツの品質を向上させることが可能です。

チェックのための以下4種類の辞書を管理できます。各辞書は自由に編集することができます。

使用禁止辞書

該当する語句が使われた場合にエラーが表示されます。

文字置換辞書

アクセシビリティや文字化けの可能性などから、使用しない方が良くと考えられる文字をその代替表現とともに登録します。該当文字が使われた場合、警告と代替表現が表示されます。

書き換え推奨語辞書

禁止するほどではないが置き換えを考えるべき語句をその代替表現とともに登録します。該当する語句が使われた場合、警告と代替表現が表示されます。

書き換え抑止語辞書

他の辞書に登録された語句について、例外を登録しておき、エラーや警告を抑止することができます。

(例) 辞書への登録



(例) 書き換え推奨の提示



Web発信とWeb品質を支える標準機能

(8) マルチサイト管理

複数のWebサイトを運用環境を統合

1台のWebReleaseで複数のサイトを管理することが可能です。各サイトは完全に独立して運用することができるので、ドメインや配信先が異なる場合にも対応できます。

WebReleaseで統合することで、サイトごとのシステムメンテナンスやセキュリティ対応を行う必要がなくなります。

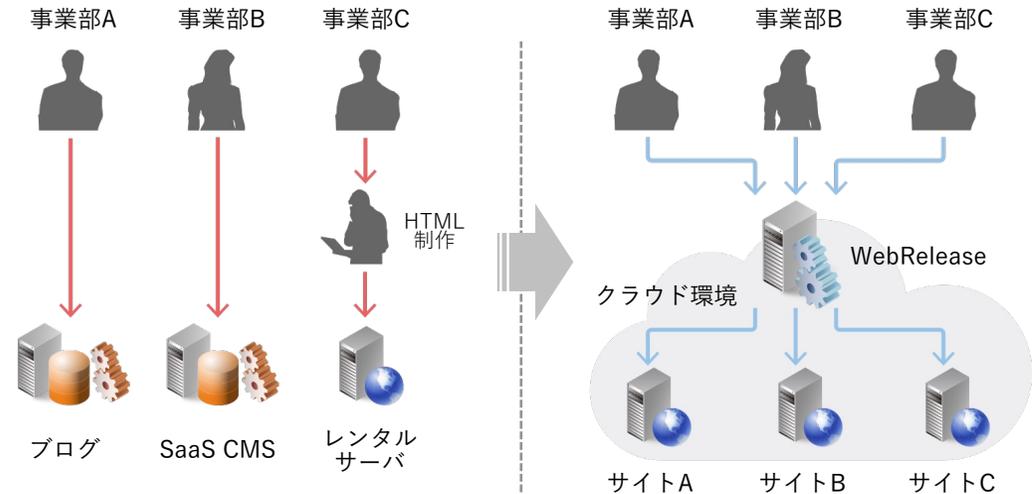
シャドーIT (システム管理者の管理対象外) を排除し、ITガバナンスを強化することができます。

サイト数・ユーザ数無制限のライセンス

1法人内で利用する限りにおいては、1ライセンスで運用できるサイト数・ユーザ数に制限はありません。管理するサイトやドメインが増えてもライセンス追加費用は発生しません。(*)

多数のサイトを集約しても安価なライセンス費・保守費で運用できるので、IT資産管理の強化とコストダウンの両方のメリットが得られます。

* 子会社や海外現地法人など、自社の他グループ企業も同じWebReleaseを共用する場合は追加ライセンス WebRelease 2 Global Sublicense をご購入ください



プレスリリース、販促、IR、採用などのコンテンツや事業部ごと、ドメインごとに運用形態も契約もバラバラで管理が行き届いていない。
コストは適正か？セキュリティは万全か？

複数サイトを一つのCMSに統合し、ITガバナンス・IT資産管理を強化する。
コスト削減、セキュリティ強化、メンテナンス負荷の削減も実現できる。

Web発信とWeb品質を支える標準機能

(9) マルチデバイス対応

マルチデバイス配信機能

一つのページから各種デバイスに最適化したコンテンツを生成して配信することができます。また、アクセスしているデバイスのカテゴリを判別して最適なコンテンツが置かれているURLに誘導することができます。

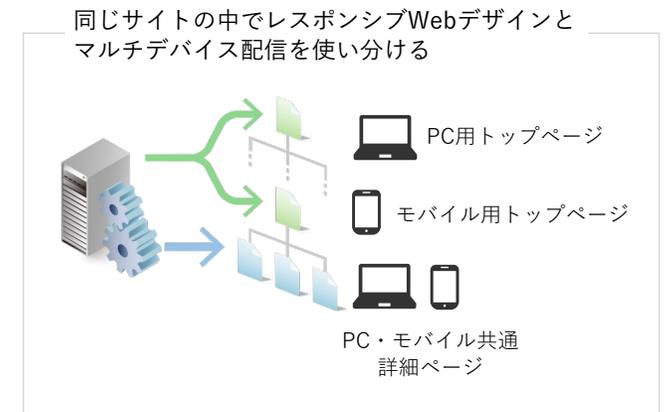
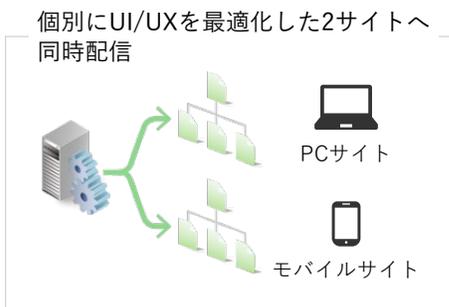
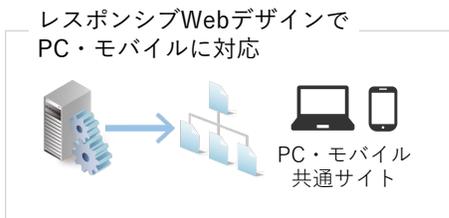
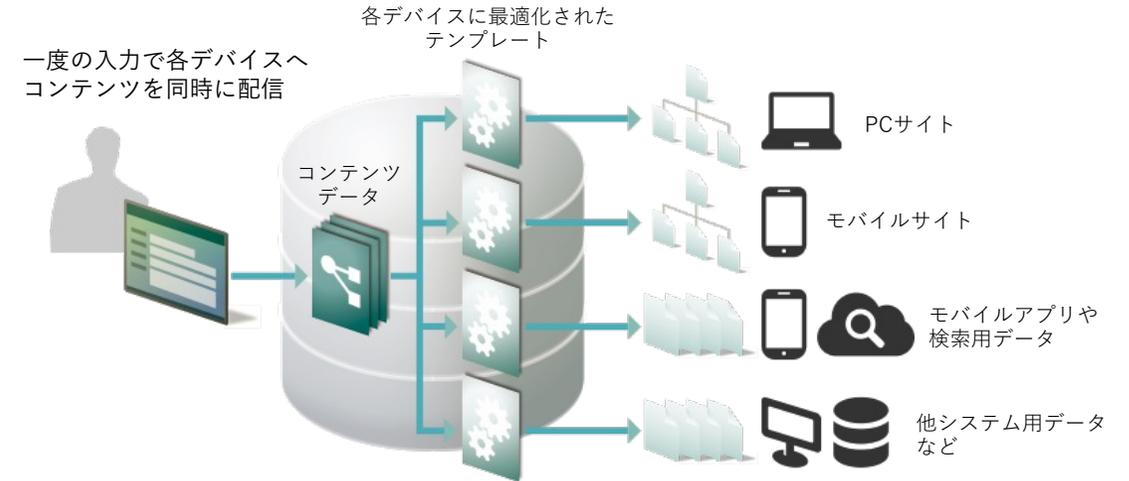
モバイル対応

レスポンシブWebデザインでPCとモバイル共用のサイトを構築することも、PC専用とモバイル専用の2サイトを同時に構築することも、どちらも可能です。

詳細ページはレスポンシブWebデザインで、トップページやカテゴリトップはPC-モバイルを出し分けるというように、同じサイトの中でモバイルへの対応方法を混在させることも可能です。

モバイルアプリのデータ更新

HTMLやCSS以外にもJavaScriptやJSON、PHPなど、テキストで表現可能なコンテンツであればほぼどんなものでも生成し配信できるので、Webサイトだけでなくモバイルアプリや他システムのデータを更新するといった、ヘッドレスCMSとしての活用も可能です。



Web発信とWeb品質を支える標準機能

(10) グローバル対応

国内だけでなく、海外拠点からもサイトを更新したい場合にも便利に利用できます。

英語インターフェース

管理画面は日本語と英語のインターフェースを持っており、ブラウザ毎、もしくはサイト毎に設定することができます。

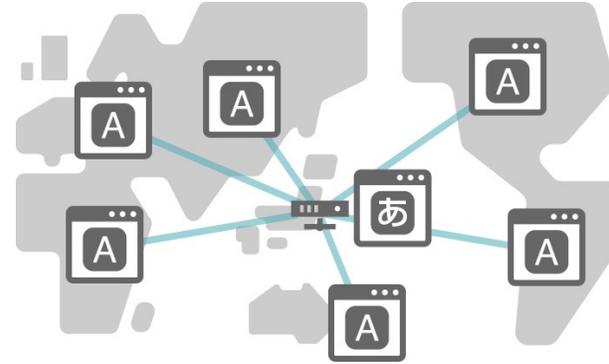
ただし製品のマニュアルは日本語のみになります。

タイムゾーン

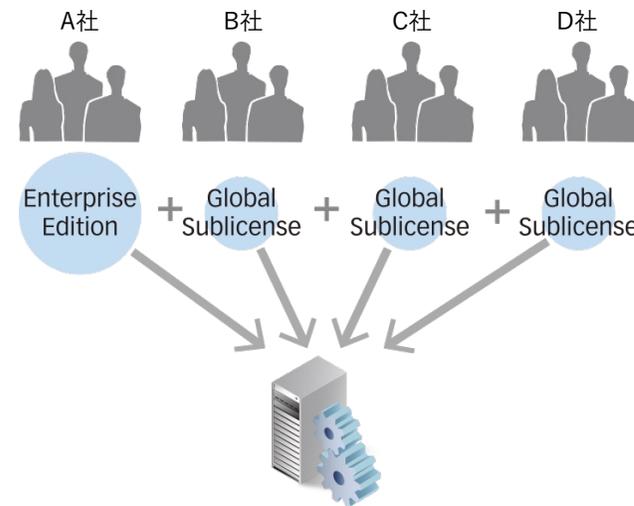
世界各地のタイムゾーンに対応しています。
夏時間にも対応しています。

グループ会社向け追加ライセンス

子会社や海外現地法人など、自社の他グループ企業も同じWebReleaseを共用する際のために、追加ライセンス WebRelease 2 Global Sublicense をご用意しています。



デフォルトUI言語（日本語 / 英語）やタイムゾーンをサイトごとに設定できるので、国内のみならず世界各地の拠点からも同じCMSを円滑に共用できます。



Global Sublicenseの追加でグループ会社の別法人が同じWebReleaseを共用することができます。

安価な追加費用で各社がページ数・ユーザ数・サイト数を無制限で利用できる、コストパフォーマンスに優れたライセンス製品です。

外部サービスや他システムとの連携による機能拡張

WebReleaseは、パッケージタイプのCMSでありながら様々な応用が可能です。外部の様々なサービスと連携し、その組み合わせによって機能を拡張してゆくことができます。

またXML連携やCSV一括ページ生成を使って、既存のデータをコンテンツとして有効に活用することもできます。

外部サービスとの連携例



外部の定型データを取り込み、それをページデータの一部として使用しながらコンテンツを生成することができます。



管理画面へCSVファイルをアップロードし、最大1万ページを一括で生成することができます。

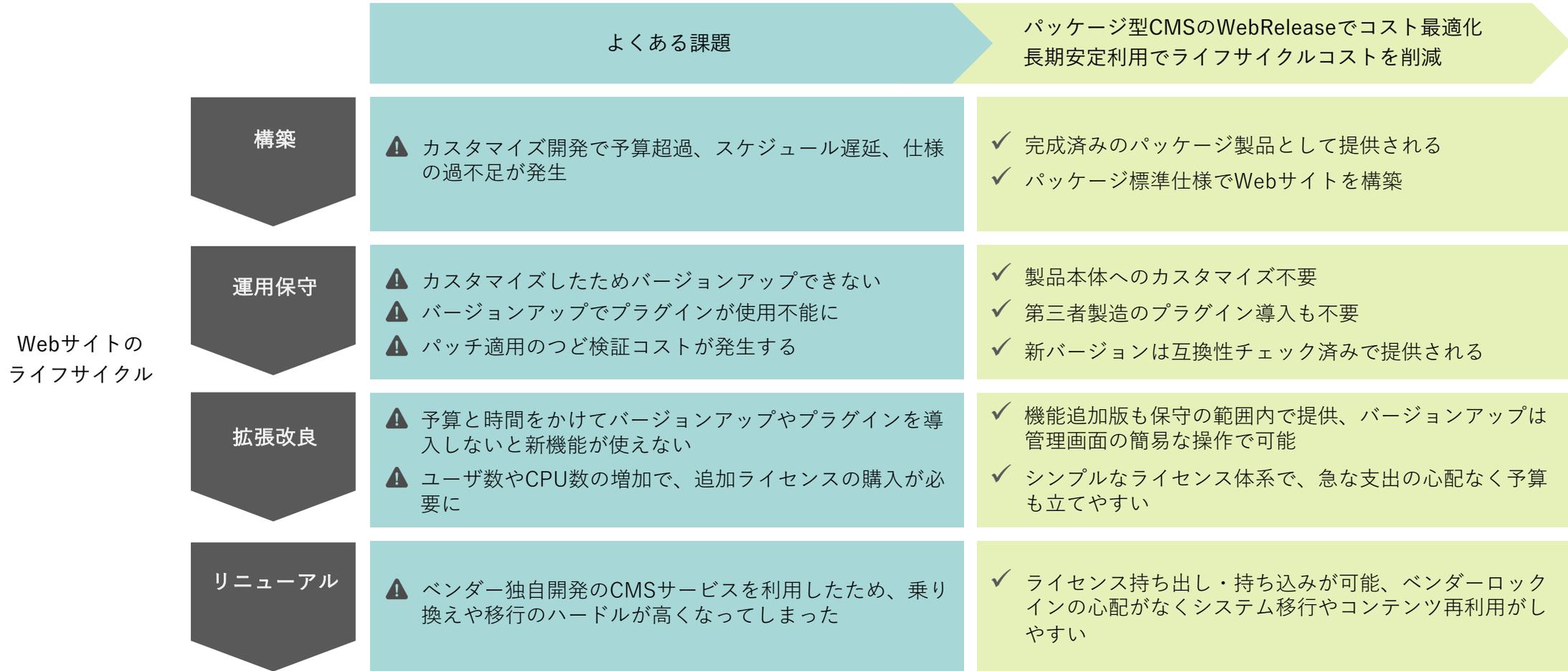


2. エコノミクス

— 優れた「**経済性**」 —



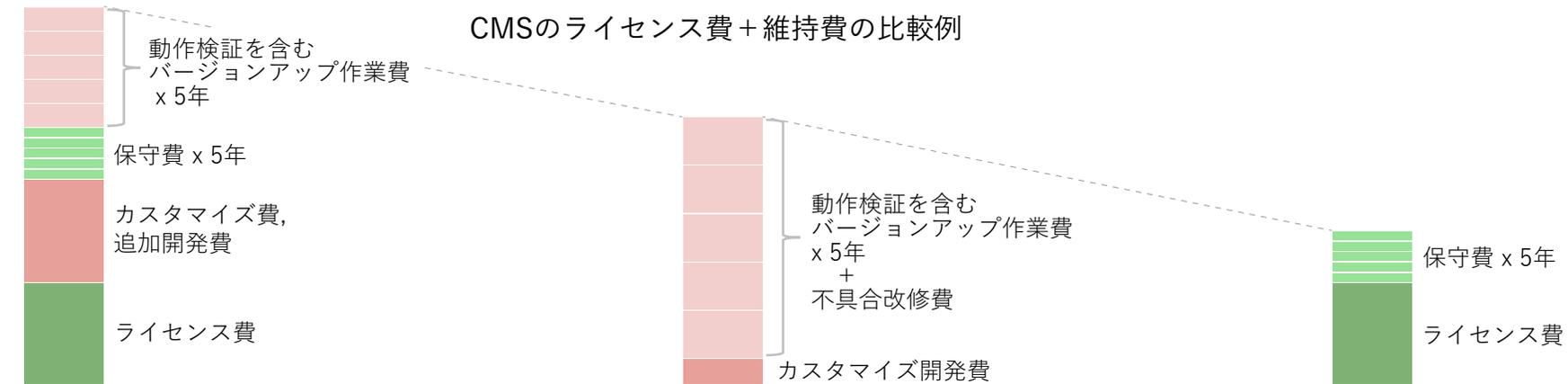
CMS導入で高い投資対効果を得るには？





トータルコスト最適化

(1) カスタマイズ不要なパッケージ CMS



カスタマイズや追加開発が必要なエンタープライズCMS

エンタープライズCMSはカスタマイズや追加開発が前提のものが少なくありません。導入時はライセンス費に加えて開発費がかかり、運用開始後も保守費に加えてバージョンアップ毎にカスタマイズ部分の動作検証費がかかるので、トータルでコスト高になります。

プラグインやカスタマイズが必要なオープンソースCMS

企業で使うにはプラグインやカスタマイズによる機能追加が必須。ライセンスは無償ですが、バージョンアップの際に毎回動作検証の費用がかかり、それらを社外に委託する場合はあまりコストメリットはありません。

バージョンアップ時に動作しなくなると不具合の改修のための再開発が必要になり、コストメリットがさらに失われます。

WebRelease

エンタープライズCMSでは希少なパッケージ型で、カスタマイズや開発は不要、インストール後はすぐにサイト構築に着手できます。

新バージョンは互換性チェック済みでリリースされるので、動作検証は不要。管理画面の簡易な操作で最新版にバージョンアップできるので維持コストも安価です。



トータルコスト最適化

(2) 安価なライセンス費・保守費

多くのお客様に同じパッケージソフトをお使いいただくことで、高機能・高品質のCMSを安価にご提供しています。

導入後に追加費用が発生しない

管理するサイトや管理者が増えても(*1)、コンテンツの拡充が進みページ数(*2)やテンプレート数が増えても、ライセンスの追加購入は必要ありません。

コンテンツが増えてCMSサーバが重くなった際も、ライセンスを気にせずサーバのスペックを強化できます。

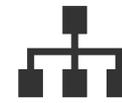
別売のオプション機能はありません。全ての機能はパッケージに含まれています。

保守は、Enterprise Editionだけが有償で他製品は無償です。開発用や待機系、グループ会社向けなどの他ライセンス製品を追加で導入しても、保守費が膨らむことはありません。

導入後も機能が追加される

保守プログラムでは、バグ修正版だけでなく、機能が強化された最新版もダウンロードすることができます。追加費用なしに最新の機能を備えたCMSを入手することができます。

WebReleaseは全て無制限



- サイト数
- ドメイン数
- 配信先の公開サーバ台数



- ユーザ数 (*1)



- ページ数 (*2)
- テンプレート数



- WebReleaseサーバのCPU・コア数

(*1) グループ子会社や海外現地法人など、複数法人で利用する場合は、追加する法人数分の Global Sublicense が必要です。

https://www.frameworks.co.jp/price/global_sublicense.html

(*2) Workgroup Editionのみ、ページ数制限 500ページ以内です。ページの数え方については以下をご参照ください。

<https://www.frameworks.co.jp/qa/at6r2r0000001ry3.html>



トータルコスト最適化

(3) クラウド運用でシステムの構築・運用コストを削減

ミドルウェアは全て無料

WebReleaseの動作に必要なミドルウェアは、全てオープンソースソフトウェアなので費用はかかりません。

また、RDBMSを使用しません。RDBMSを稼働させるためのサーバコスト、ライセンス料、保守料がかかりません。

WebReleaseはクラウド対応のCMS

Amazon Web ServicesやビッグロブPattern Style CMS、IIJ GIOなど、クラウドでの運用実績を多数有しています。DBサーバが不要で静的CMSのWebReleaseはクラウド上での運用に適しています。CPU数・コア数無制限なので、ライセンス費用を気にせずにサーバをスケールアップできます。

クラウド利用のコストメリット

サーバを自社で保有する必要がなくなります。サーバの選定や調達、導入作業が不要になり、インフラの保有コストを削減することができます。

サーバやネットワーク機器の故障対応や運用をクラウドベンダーに任せられるので、インフラの運用コストを削減することができます。

クラウドであればその時点で最適なサイジングのサーバを選択して利用することができます。オーバースペックなサーバを保有する必要がなくなります。



トータルコスト最適化

(4) 特定のベンダーに囲い込まれることがない

特定のベンダーの囲い込みに注意

システムインテグレーターやWeb制作会社が独自に開発し提供しているCMSの場合、CMSとWeb制作とクラウドなどが一体化したサービスになっており、更にそのCMSも第三者による構築が想定されていないため他社が引き継ぐことができません。

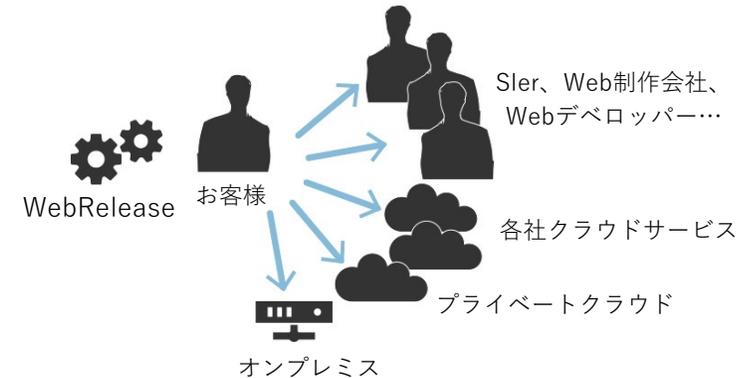
そのため導入後は発注先が限定されたり、サーバ環境を他へ乗換えられないといった状況に陥ることがあります。このように特定ベンダーに囲い込まれる(ベンダーロックイン)と、競争が生じないため価格の決定はベンダー側が有利になりがちです。

WebReleaseはベンダーフリー

WebReleaseはパッケージソフトなので、そのような特定のベンダーに多方面から囲い込まれてしまうことはありません。構築も制作もサーバ環境も、お客様のニーズに最適なパートナーをご自由にお選びいただき、コンペや入札の実施など、自社である程度価格をコントロールできる状況でプロジェクトを進めていただくことができます。

開発元のフレームワークソフトウェア社は自社で構築や運用を請け負わないパッケージCMS専門ベンダーで、WebReleaseは第三者による構築・運用を前提に開発されています。そのために必要な技術マニュアル・技術情報をWebサイトで公開しています。

WebReleaseは制作会社やインフラを自由に選べる



SlerやWeb制作会社の独自CMSはベンダーロックインに注意



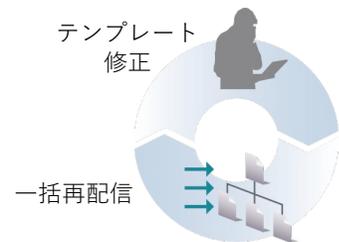
トータルコスト最適化

(5) 長く使える

サイトリニューアルを繰り返しながら10年以上利用し続けている事例を多数有しています。同じCMSを長期間運用することで、初期投資をしっかりと回収することができます。

コンテンツ再利用

サイトリニューアルも大掛かりな再開発やコンテンツの再入力なしに、テンプレートに修正を加えるだけで実現できます。コンテンツ資産を捨てることなく、サイトを成長させ続けることが可能です。



テンプレートに変更を加えると過去に作成した全ページを再配信で書き替えるので、コンテンツの再入力なしにPDCAサイクルを高速で回すことができます。

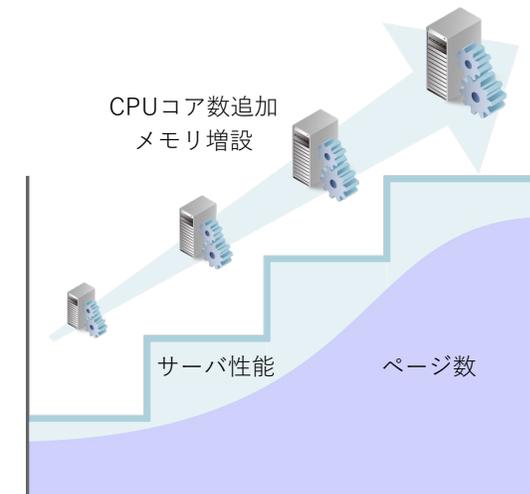
バージョン互換性

2000年7月のver.1.0から最新版まで、リリースされた新バージョンは旧バージョンとの互換性を保ち続けています。

スケーラビリティ

CMSサーバをスケールアップすることで配信性能が向上します。これまでの運用実績により10,000ページを超える大規模なサイトでも確実に運用管理できることが実証されています。

ユーザインタフェースもスケーラビリティが考慮されており、コンテンツが膨大になっても操作性が低下して実用性が損なわれることはありません。



コンテンツが増加してもCMSサーバをスケールアップすることで運用し続けることができます。

オンデマンドでサーバを強化できるクラウドなら、当初から将来を見越した余裕のある設備を保有する必要がありません。



3. セキュリティ

— 継続的で管理可能な「**安全性**」 —

「弱点」を露出しない、プロアクティブなセキュリティ対策

一般公開するWebサイトならではの「セキュリティリスク」

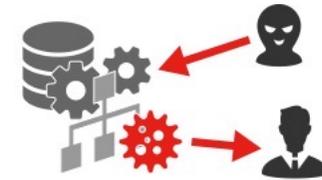
インターネットに公開するWebサイトは、セキュリティ上の弱点（リスクポイント）も一般公開する危険性が常にあります。攻撃者を含む不特定多数がWebサイトにアクセスしますが、CMSなど複数のソフトウェアで構成されるWebサイトは、潜在的に攻撃対象となる「脆弱性（不具合や仕様不備）」を抱えます。バグのないアプリが存在しないように、脆弱性が全く無いCMSを求めることも現実的ではありません。

脆弱性というリスクポイントを公開することの「運用負荷とコスト」

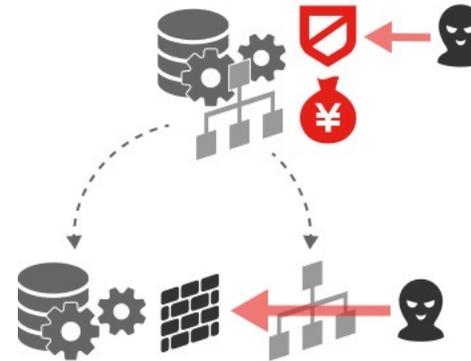
そのため、潜在的な脆弱性を抱えるCMSを公開環境に配置する場合、即時的なバージョンアップやパッチ適用、WAF導入といった対策が推奨されます。しかし、事後的に発見された脆弱性にリアクティブに対応する運用は、即応できるメンテナンス体制やセキュリティ製品の導入などコスト負担が重荷になります。

シンプルで費用対効果が高い「リスクポイントを外に出さない」アプローチ

そこで多くの企業サイトで採用されるのが、公開するWebサイトと潜在的な脆弱性を含むCMSを分離する方法です。最初から攻撃者もアクセスする公開環境にCMSやそのログイン画面を配置しないことで、よりプロアクティブ（事前対応的）にセキュリティ上の弱点の露出を減らし、セキュリティ対策とコストをバランスさせる考え方で、さらに安価に露出面を削減する対策として、最新のクラウド技術を活用した「サーバーレス」の採用も増えています。



CMSの脆弱性が攻撃され、悪意のあるファイルが設置される。
サイト閲覧者に被害が及ぶため加害者の立場にもなってしまう。



セキュリティ製品の導入や、それら製品やCMSのアップデートを即時適用する体制では、コスト負担が大きい。

CMSとWebサイトを分離、公開環境にCMSやCMSのログイン画面を配置しない。

参考資料: IPAテクニカルウォッチ「CMSを用いたウェブサイトにおける情報セキュリティ対策のポイント」
<https://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/12356598/www.ipa.go.jp/security/technicalwatch/20160928-1.html>

企業サイトのための安全対策

(1) 静的配信型CMSの優位性

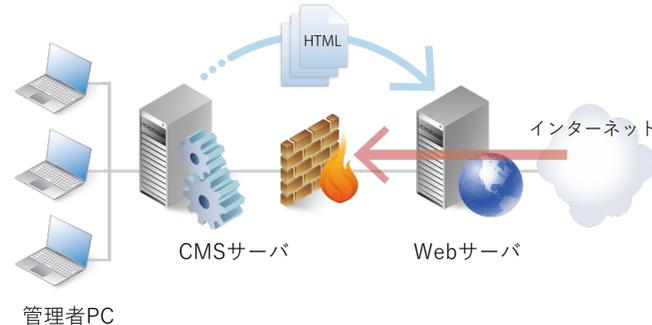
WebReleaseはセキュアな静的CMS

企業のWebサイトではセキュリティは最重要課題のひとつです。安全に運用できるCMSでなければ導入することはできません。WebReleaseはセキュリティに強い静的CMS(静的サイトジェネレータ的なCMS)です。

静的CMSは、コンテンツ作成者(サイト運営者)がCMSを使って入力・作成したコンテンツデータを基に静的なHTMLファイルを生成し、それを公開サーバに配信するところまでの処理を担当します。公開サーバ上ではApacheなどのWebサーバを稼働させ、CMSから配信されて来た静的なHTMLをユーザのブラウザへ配信します。

静的配信型CMS (WebRelease)

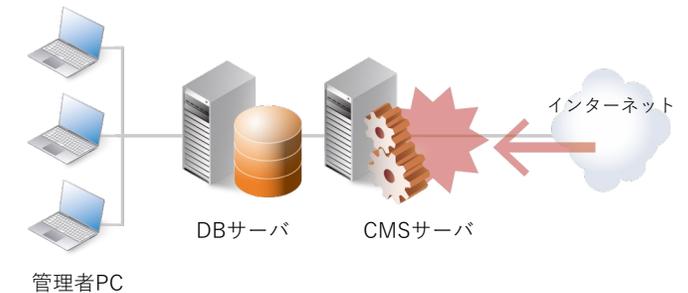
公開サーバとCMSサーバを完全に分離できるため、公開サーバ側からCMSに不正侵入される危険がありません。



公開サーバ側にコンテンツ管理のための複雑なシステムを設置する必要がないため、外部からの攻撃に対して堅牢です。

動的配信型CMS

CMSサーバが公開サーバを受け持つ。外部から直接CMSサーバへアクセスされるため、常に脆弱性に対する注意が必要です。





静的CMSと動的CMSの比較

静的CMSのメリット

セキュリティ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 公開サーバ側にコンテンツ管理のための複雑なシステムを設置する必要がないため、外部からの攻撃に対して堅牢です。 ✓ 公開サーバとCMSサーバを完全に分離できるため、公開サーバ側からCMSに不正侵入される危険がありません。
アクセス集中	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 静的ファイルなので公開サーバの負荷が軽く、より小さな設備で大量のアクセスに対応できます。
公開無停止	<ul style="list-style-type: none"> ✓ CMSが停止するとコンテンツの更新はできなくなりますが公開のサービスは止まらないので、CMSのノンストップ運用は必須ではありません。CMSのメンテナンスやアップグレードも公開サービスを止めずに実施できます。 ✓ 公開サーバをノンストップ化するだけでWebをノンストップ化できます。
インフラコスト	<ul style="list-style-type: none"> ✓ システム構成がシンプルのため構築～運用が容易で、初期コストもランニングコストも抑えることができます。 ✓ 静的CMSでもパーソナライズは可能です。

動的CMSのデメリット

<ul style="list-style-type: none"> ⚠ 公開サーバ＝CMSサーバ。外部から直接CMSサーバへアクセスされるため、常に脆弱性に対する注意が必要です。
<ul style="list-style-type: none"> ⚠ ページを動的に生成するためサーバの負荷が高く、より高性能の設備が必要になります。SNS由来の突発的なアクセス集中への対応にコストがかかる場合があります。
<ul style="list-style-type: none"> ⚠ CMSが停止すると公開サービスも止まるため、アプリケーションサーバもDBサーバもノンストップ化が必須です。
<ul style="list-style-type: none"> ⚠ システム構成が複雑になるため構築・運用も複雑になり初期コスト／ランニングコストとも大きくなる傾向があります。



企業サイトのための安全対策

(2) WebReleaseのセキュリティ機能

認証アプリによる2要素認証

ログイン時にIDとパスワード以外に、認証アプリに表示されるワンタイムパスワードの入力が必要となるよう設定できます。



アカウントの自動閉鎖

複数回の連続したログイン失敗を検知した場合にそのアカウントを自動閉鎖することができます。

ログイン通知メール

ログインしたユーザにその都度ログインがあったことを通知するメールを送付するよう設定できます。不正アクセスがあった場合に即時に知ることができます。

パスワードのハッシュ化

パスワードそのものは保管しておらず、ハッシュ値のみを保管しています。

設定可能なパスワードの制限

文字数や文字種、有効期限、同じパスワードの使い回し禁止など、パスワード設定に制限を加えることができます。

細かな権限設定

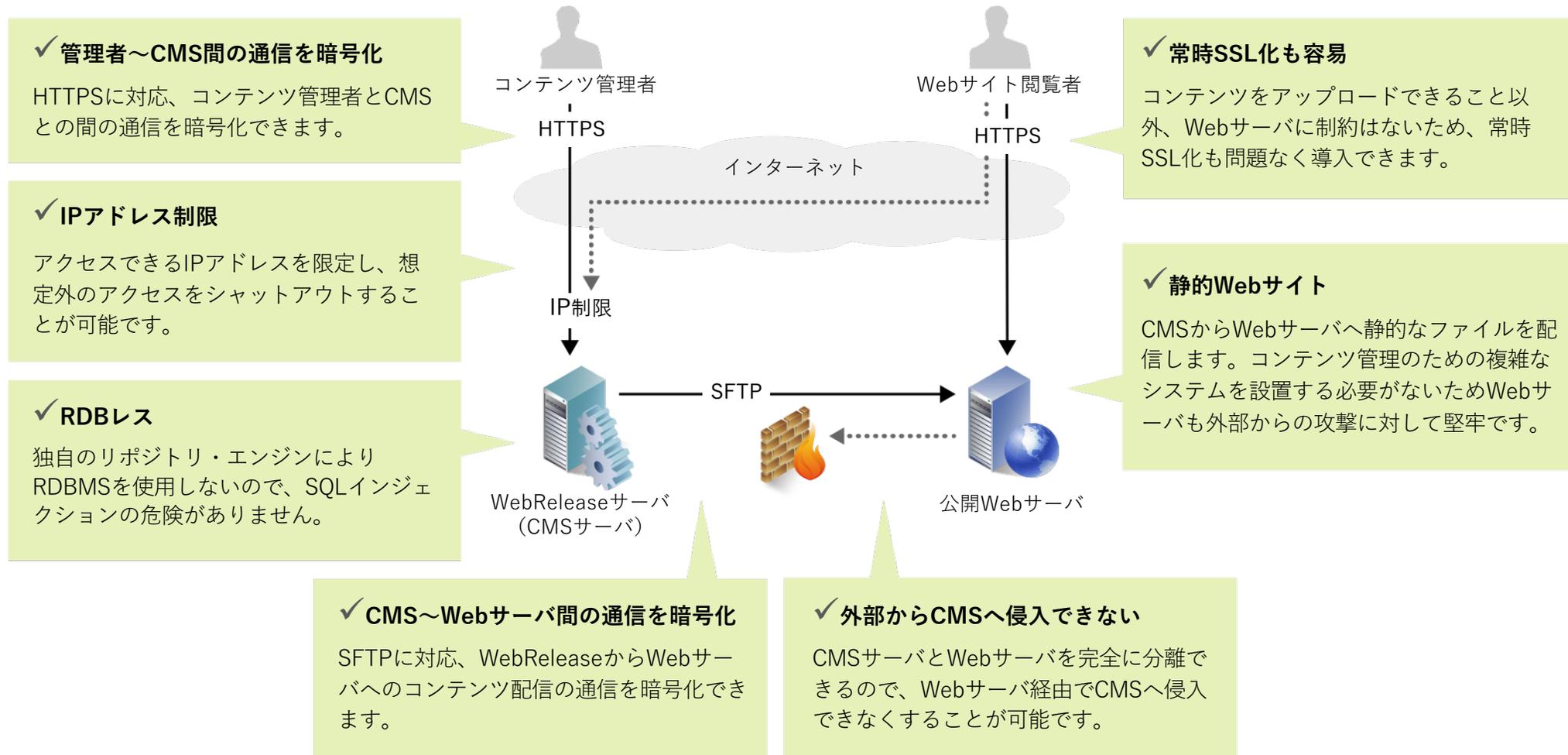
サイト単位の操作権限、サイト内の各フォルダ単位の操作/プレビュー権限などをユーザ毎に細かく設定し管理できます。

操作履歴

ユーザのログイン/ログアウトの履歴が記録されます。また、ページ、テンプレート、その他各種設定に関しても操作履歴が記録されます。不正を防止するための相互監視や内部統制の監査に有効な、企業向けCMSにとって必要な機能です。

企業サイトのための安全対策

(3) セキュアなシステム構成例



企業サイトのための安全対策

(4) 年間保守サポート

ソフトウェア保守

商用CMSなので確実な保守が受けられます。WebReleaseの保守プログラムは脆弱性対応版・不具合修正版だけでなく、機能追加された新バージョンも入手することができます。

2000年7月のver.1.0の出荷開始以来、既に60回以上の保守と新バージョンの提供を実施した実績を有しています。リリースノートをWebサイトで公開しています。

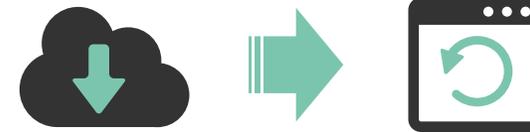
オンラインサポート

メールによる技術的な疑問および障害に関するお問い合わせに対して、メールでお答えする有償のサポートサービスを提供しています。

カスタマイズやプラグイン追加が不要なパッケージなので、構築ベンダーとWebReleaseの責任分界点が明瞭です。責任範囲が曖昧なためにしっかりしたサポートが得られなかったり、回答がたらい回しになることがありません。

パッケージソフトなのでアップデートが容易

カスタマイズやプラグイン追加が不要なパッケージソフトウェアなので、バージョンアップが容易です。新バージョンは互換性をチェック済みでリリースされるので、お客様側での検証作業は必要ありません。管理画面上の数分程度の簡易な操作でアップデートできるので、エンジニアの手を借りる必要もありません。



サポートサイトから
アップデートファイルを
ダウンロードする

アップデートファイルを
管理画面に入力し
WebReleaseを再起動する

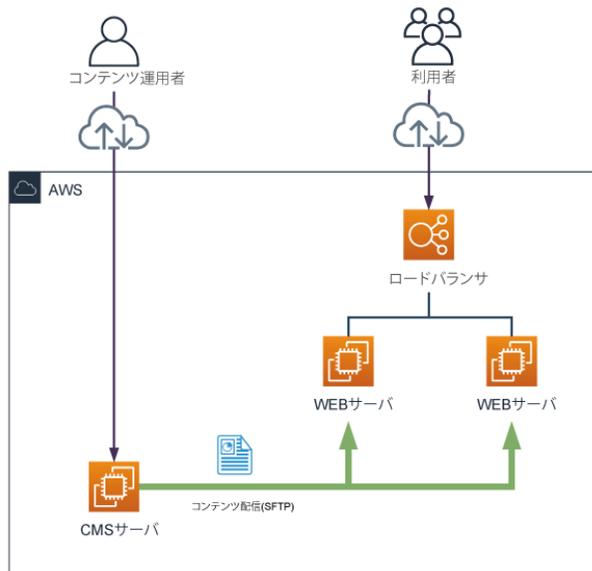
ミドルウェアのアップデートは不要

WebReleaseの動作に必要なJavaやTomcatは、お客様側でアップデートしていただく必要はありません。サポートサイトからダウンロードする更新ファイルには、WebReleaseだけでなく動作確認済みのJavaとTomcatが含まれています。最新版のWebReleaseをお使い続けていただくことで、JavaとTomcatも安心できるバージョンをお使いいただけます。

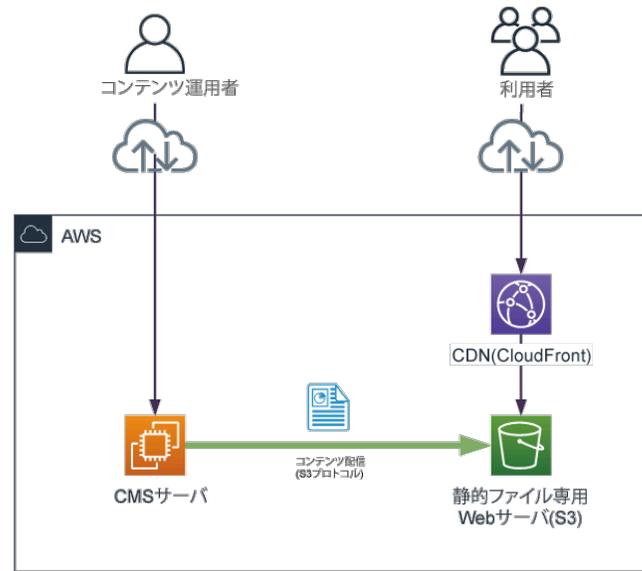
企業サイトのための安全対策

(5) 高可用性対策事例

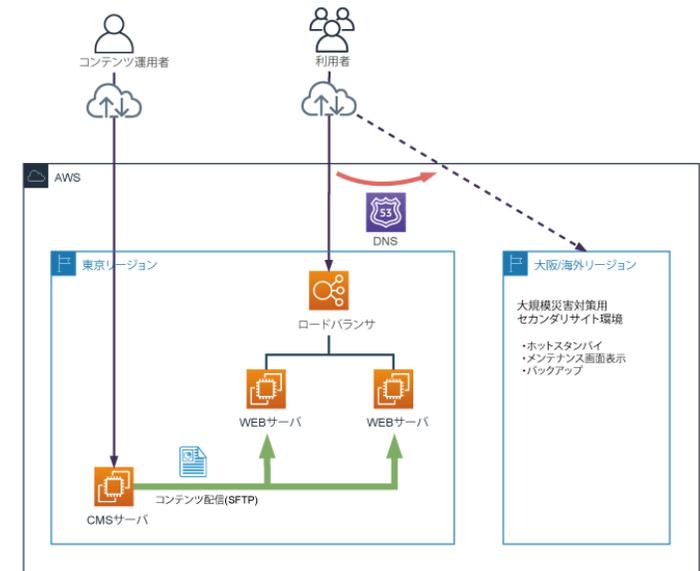
Webサーバ冗長構成で公開無停止化



アクセス集中に強いCDN利用構成



広域災害対策の「ディザスタリカバリ構成」



このほかにも既存のWebサーバをそのまま利用するミニマム構成や、CMSサーバも待機系を設けるなど、お客様のご要望に応じて弊社パートナーが最適なサーバ・ネットワーク構成をご提案します。

事例協力 ビッグロブ株式会社



4. パートナーエコシステム

– Web発信を成功に導く「生態系」 –

豊富なパートナーが導入から運用までをご支援します

大手SIerやウェブ制作会社、ウェブデベロッパー、クラウド事業者など、長年の実績とノウハウを持つ多数の弊社パートナー各社が、お客様のWebReleaseの導入から構築、運用までをご支援します。

パートナーのご紹介も承ります。お気軽にご相談ください。

info@frameworks.co.jp



ほか

ビジネスパートナー

<https://www.frameworks.co.jp/partners/partners.html>

プロジェクト体制も柔軟

様々な専門性、様々な会社規模、WebReleaseならではの多彩なパートナー企業が、お客様のご要望に合わせた体制で導入から運用までをご支援します。

全てをワンストップで

構築フェーズから運用フェーズまで、WebサイトもCMSもクラウドも、全てをパートナーがワンストップで承ります。

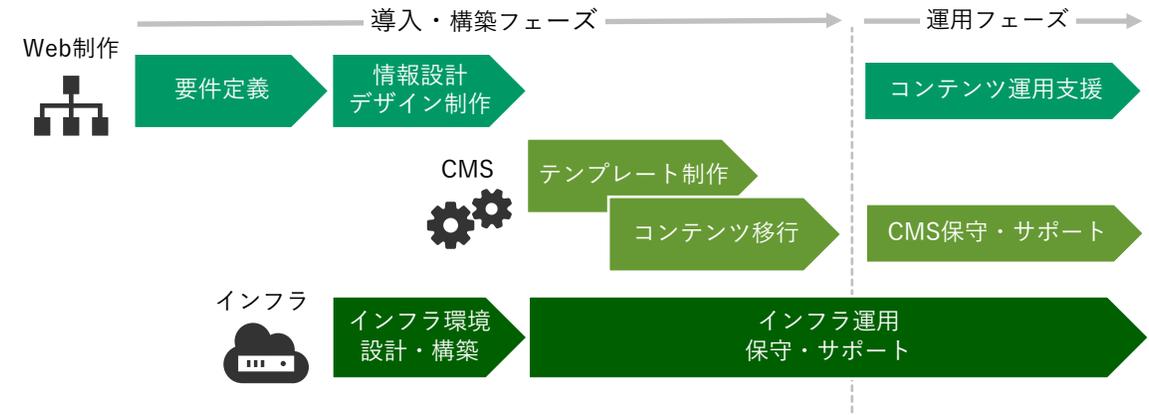
パートナーが互いの強みを活かしながら連携

Webサイトの設計やデザイン、テンプレート制作やコンテンツ移行、クラウド環境の構築・運用など、特定の領域に高い専門性を有した複数のパートナーが連携しながらプロジェクトを遂行します。

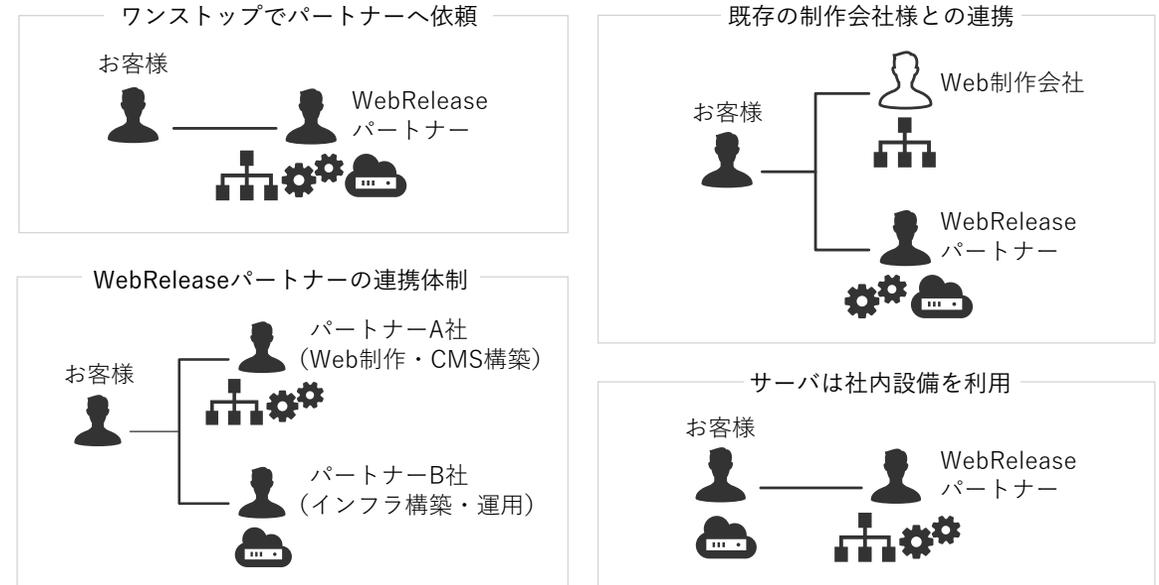
既存の制作会社様、ITベンダー様との連携

お客様が普段お取引されているWeb制作会社が要件定義から設計・デザイン制作までを担当し、テンプレート制作やコンテンツ移行をパートナーが担当するといった、プロジェクトのある部分だけを受けることもできます。

SaaSではなくパッケージタイプのWebReleaseなら、自社のインフラ設備を利用し、Web制作とCMS構築をパートナーへ依頼するといったことも可能です。



プロジェクト体制例

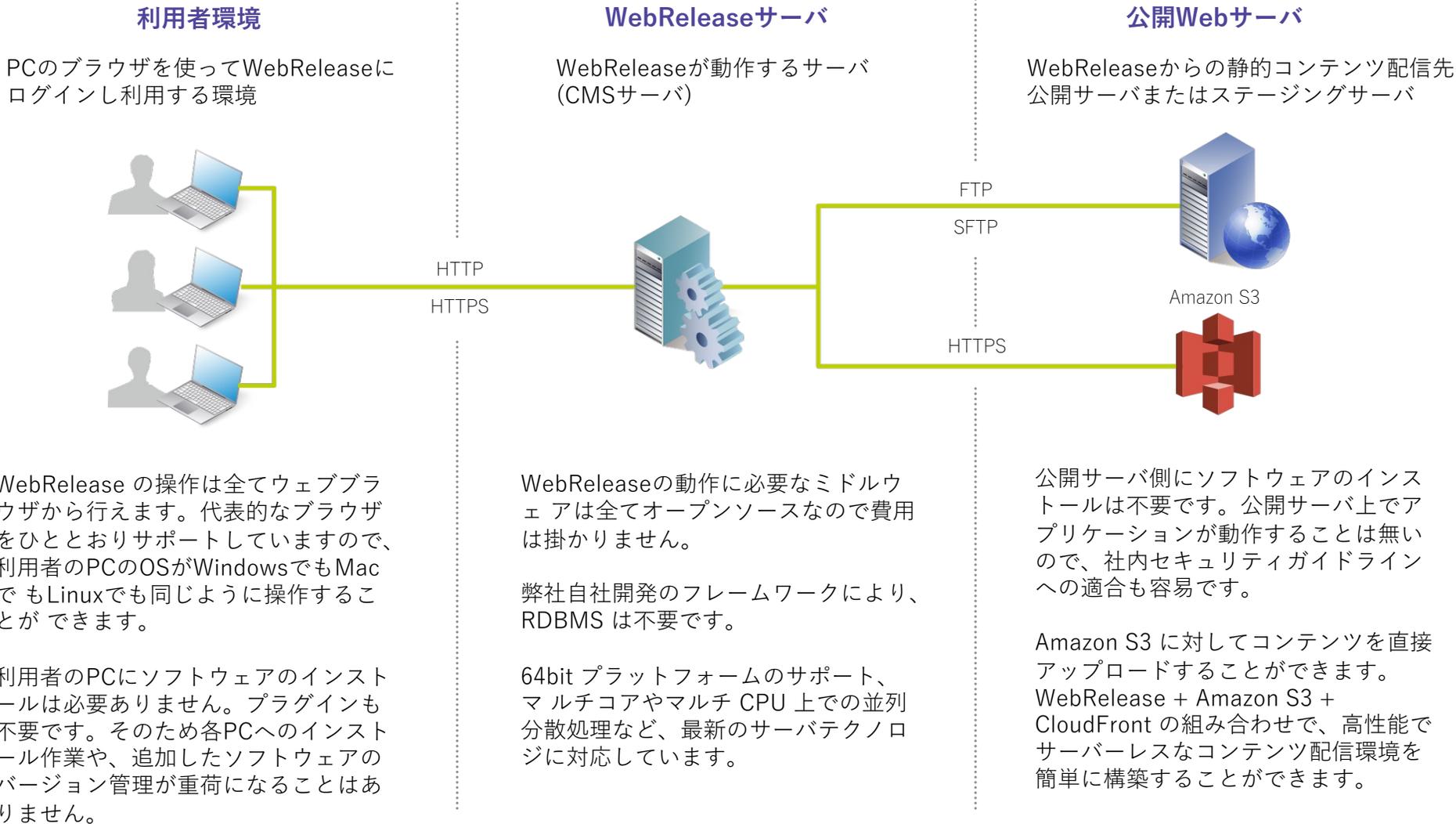


動作環境





動作環境概要



WebRelease の操作は全てウェブブラウザから行えます。代表的なブラウザをひとつおとりサポートしていますので、利用者のPCのOSがWindowsでもMacでもLinuxでも同じように操作することができます。

利用者のPCにソフトウェアのインストールは必要ありません。プラグインも不要です。そのため各PCへのインストール作業や、追加したソフトウェアのバージョン管理が重荷になることはありません。

WebReleaseの動作に必要なミドルウェアは全てオープンソースなので費用は掛かりません。

弊社自社開発のフレームワークにより、RDBMS は不要です。

64bit プラットフォームのサポート、マルチコアやマルチ CPU 上での並列分散処理など、最新のサーバテクノロジーに対応しています。

公開サーバ側にソフトウェアのインストールは不要です。公開サーバ上でアプリケーションが動作することは無いので、社内セキュリティガイドラインへの適合も容易です。

Amazon S3 に対してコンテンツを直接アップロードすることができます。WebRelease + Amazon S3 + CloudFront の組み合わせで、高性能でサーバーレスなコンテンツ配信環境を簡単に構築することができます。



WebReleaseサーバ

オペレーティング システム	Amazon Linux 2023 (x86_64 / AArch64)	macOS Sonoma v14 (Intel / Apple Silicon)
	Amazon Linux 2 (x86_64 / AArch64)	macOS Ventura v13 (Intel / Apple Silicon)
	Red Hat Enterprise Linux 8, 9 (x86_64 / AArch64)	
	AlmaLinux 8, 9 (x86_64 / AArch64)	
	Rocky Linux 8, 9 (x86_64 / AArch64)	
	MIRACLE LINUX 8 (x86_64)	
HTTPサーバ	Apache 2 + mod_proxy (OSに同梱)	
Java実行環境	OpenJDK 17 (Amazon Corretto) (WebRelease2 に同梱)	
アプリケーションサーバ	Tomcat 10 (WebRelease2 に同梱)	
ハードウェア	メモリ2GB以上、マルチコアCPU推奨	

64bit 環境をご用意ください

WebReleaseは64bit 環境でご利用ください。32bit CPUを搭載したマシンまたは32bit 版OS上ではWebReleaseはご利用いただけません。

SMTP サーバをご用意ください

WebReleaseには、各種通知メールを送信する機能があります。これらの機能をお使いになる場合にはWebReleaseからメールを送信するためのメールサーバが必要になります。WebReleaseは一般的な port 25/465/587を使ってメールの発信が可能なSMTPサーバに対応しています。またSTARTTLSやパスワード認証にも対応しています。

インストールは簡単です

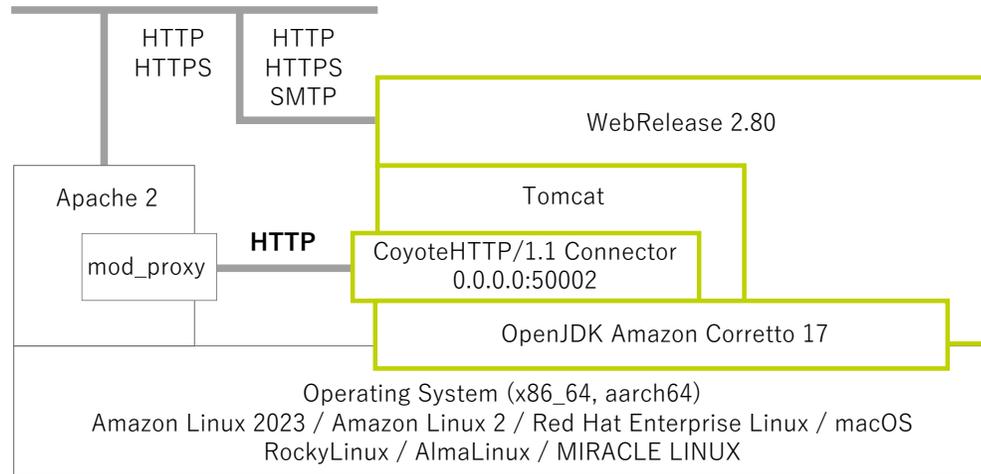
WebReleaseのパッケージにはApache Software FoundationからリリースされているTomcatとAmazon社からリリースされているOpenJDK Correttoが同梱されています。TomcatとOpenJDK CorrettoのインストールとコンフィギュレーションはWebReleaseの統合インストーラで行なわれますので WebReleaseのインストールの際にTomcatとOpenJDK Correttoを別途にダウンロード/インストールしていただく必要はありません。

データベースサーバは不要です

WebReleaseの動作にはデータベースサーバは必要ありません。WebRelease は独自にリポジトリエンジンを持っていますので、インストールされたサーバのローカルファイルシステム上にコンテンツリポジトリを作成して稼働します。リポジトリはNetwork Attached Storage (例えばSMBやNFS) 上に置くことはできません。iSCSIなどの上に構築されたファイルシステムに置く事には問題はありません。

WebReleaseソフトウェア構成

WebRelease 2.80 のサーバのソフトウェア構成



Apache について

ApacheとWebReleaseとの間の接続にはmod_proxyが使われています。mod_proxyはApacheに組み込んで使用するモジュールです。WebReleaseの動作推奨環境としてご案内しているOSにバンドルされているApacheには、いずれもmod_proxyがデフォルトで含まれていますので、それをそのままお使いいただけます。別途ご用意いただく必要はございません。

Tomcat と OpenJDK Corretto について

WebRelease 2.80の稼働にはTomcat 10とOpenJDK 17が必要です。これらは、いずれもWebRelease 2.80のインストールDVDに同梱されており、統合インストーラでWebRelease専用の場所にインストールされます。TomcatとOpenJDKを別途にご用意いただく必要はございません。

WebRelease 2.80 インストール時にご用意いただくもの

WebReleaseの動作推奨環境としてご案内しているOSをApacheが稼働する状態でサーバにインストールしていただければWebReleaseのインストール準備は整います。

なお、WebReleaseサーバとは別に「公開Webサーバ」をご用意ください。「公開Webサーバ」はWebReleaseが生成した静的コンテンツをインターネットに公開するためのサーバとして必要になるものです。WebReleaseサーバ上に公開Webサーバを同居させることも可能ですが、セキュリティ要件やアベイラビリティ要件が異なりますので別途ご用意いただく方が安心です。

WebRelease 2.80では、WebReleaseからAmazon S3に直接コンテンツをアップロードすることができますので、公開サーバとしてAmazon S3+CloudFrontの組み合わせをお使いいただくことも可能です。



公開Webサーバ、WebRelease利用者環境

公開Webサーバ

WebReleaseサーバとは別に公開Webサーバが必要です。WebReleaseは生成したコンテンツをこの公開Webサーバにアップロードします。WebReleaseサーバは公開Webサーバへ固定アカウントでFTPまたはSFTP可能なネットワーク上に設置してください。

FTPまたはSFTPでコンテンツがアップロードできるならば、公開Webサーバには、基本的にどのようなOS / HTTPDをご利用いただくことも可能です。

Amazon S3 へ直接配信

WebReleaseはAmazon S3に対してコンテンツを直接アップロードすることができます。これにより、Amazon S3 + Amazon CloudFront + AWS Lambda@Edgeといった構成のコンテンツ配信環境を構築できます。この構成を採ることで、グローバルで極めて高速なサーバレスコンテンツ配信環境を、安価に、また、手軽に構築できます。

WebRelease利用者(コンテンツ管理者)環境

WebReleaseでのコンテンツ制作と管理は、下記のいずれかのブラウザが稼働するPCから行なうことができます。

できるだけ最新版のブラウザをお使いください。

Microsoft Edge (IE11 モードでのご利用はできません)

Google Chrome

Mozilla Firefox

Apple Safari

製品構成と価格





価格表

製品名	製品番号	価格(税込)	備考	梱包品
WebRelease 2 Enterprise Edition	WR02E	¥3,300,000	ページ数無制限	DVD
WebRelease 2 Global Sublicense	WR02GS	¥550,000	グループ企業用追加ライセンス ページ数無制限、要 Enterprise Edition	ライセンス証書
WebRelease 2 Standby License	WR02S	¥1,650,000	待機系用途限定ライセンス ページ数無制限、要 Enterprise Edition	ライセンス証書
WebRelease 2 Developer Edition	WR02D	¥1,100,000	開発用途限定ライセンス ページ数無制限	DVD
WebRelease 2 Workgroup Edition	WR02W	¥550,000	ページ数制限 500 ページ以内	DVD

ライセンスについて

1ライセンスで一つのWebReleaseを稼働させることができます。複数のサーバ上で、または1台のサーバ上で複数のWebReleaseを稼働させる場合は、稼働数分のライセンスが必要です。

WebReleaseは、お客様自身の業務を処理するためのみに使用することができます。ASPやSaaSなどの業務を行うことはできません。自社の制作業務にWebReleaseを使用し、生成したコンテンツのみ顧客に納品することはできますが、その場合、顧客が自社のWebReleaseにログインすることはできません。

グループ会社・海外現地法人への導入

WebReleaseは、一つのライセンスを異なる法人間で共用することはできません。複数のグループ会社や海外現地法人で共用する場合は、Enterprise Editionと追加する法人数分のGlobal Sublicenseをご購入ください。

待機系用ライセンス

Standby Licenseは待機系用途に限定したライセンス製品です。Enterprise Editionを既にお持ちか、同時購入のお客様のみご購入いただけます。

主系で運用するEnterprise Editionの障害対策を目的として、1台ないし2台の待機系サーバに同じEnterprise Editionをインストールしてご利用いただけます。開発用途には別途Developer Editionをご購入ください。

開発用ライセンス

Developer Editionは開発用途に限定したライセンス製品です。構築・リニューアルや各種検証作業のために、本番環境とは別サーバにWebReleaseをインストールしたい場合にご購入ください。



期間ライセンス

WebRelease 2 Enterprise AL	WR02A	¥1,100,000	1年間利用可能ライセンス ページ数無制限	DVD
WebRelease 2 Enterprise XL	WR02X	¥1,056,000	2年目以降, 1年間利用可能 要 Enterprise AL	ライセンス証書

Enterprise ALは期間ライセンス製品です。1年単位で利用ライセンスをご購入いただく点を除いてEnterprise Editionと同じです。キャンペーン等、あらかじめ公開期間が限られているサイトに適したライセンスです。

アップグレード製品

WebRelease 2 Workgroup to Enterprise Upgrade	WR02WE	¥2,750,000	Workgroup Edition から Enterprise Edition へのアップグレード 要 Workgroup Edition	DVD
WebRelease 2 Workgroup to Enterprise AL Upgrade	WR02WA	¥550,000	Workgroup Edition から Enterprise AL へのアップグレード 要 Workgroup Edition	DVD
WebRelease 2 Workgroup to Developer Upgrade	WR02WD	¥550,000	Workgroup Edition から Developer Edition へのアップグレード 要 Workgroup Edition	DVD
WebRelease 2 Enterprise AL to Enterprise Upgrade	WR02AE	¥2,750,000	Enterprise AL から Enterprise Edition へのアップグレード 要 Enterprise AL	DVD

500ページ制限版のWorkgroup Editionからページ数無制限のEnterprise Editionもしくは年間ライセンスのEnterprise ALや開発用途限定のDeveloper Editionへ、またEnterprise ALからEnterprise Editionへアップグレードが可能です。アップグレード後は旧版の使用権は消失します。



保守サポート

Enterprise Edition 年間保守	WR02SM	¥330,000	Enterprise Edition 用ソフトウェア保守 *(バグ修正版・機能追加版ダウンロード提供), および 保守契約期間内2インシデントまでのオンラインサポート	契約証書
WebRelease 2 オンラインサポート	WR02OS	¥330,000	12ヵ月以内10インシデントまでのメールでのご質問	-
WebRelease 2 オンラインサポート・スポット	WR02SS	¥55,000	1インシデントのメールでのご質問	-

Enterprise Edition のみ保守は有償です

Enterprise Editionには、有償の年間保守プログラムが用意されています。バグ修正版も機能追加版もいつでもダウンロードすることができるソフトウェア保守に、保守契約期間内 2インシデントまでのオンラインサポートがバンドルされたプログラムです。

他製品のソフトウェア保守は無償

Enterprise EditionにGlobal SublicenseやStandby Licenseを追加して導入する場合、保守費用はEnterprise Editionについてのみ発生します。

Enterprise Edition以外の以下の製品には、無償でソフトウェア保守が提供されます。バグ修正版も機能追加版も、無償でいつでも最新版をダウンロードすることができます。

- Developer Edition
- Workgroup Edition
- Enterprise AL
- Enterprise XL

WebRelease 2 オンラインサポート

メールによる技術的な疑問および障害に関するお問い合わせに対して、メールでお答えするサポートサービスをご用意しています。サポートの対象は以下のとおりです。

- インストール方法について
- 基本的な操作方法や製品の機能について
- WebReleaseが原因で発生した障害について

他社製品やお客様固有の動作環境、お客様独自のテンプレート作成方法等に関するお問い合わせにつきましては、サポート対象外とさせていただきます。

インシデントとは、1つの問題について結論が出るまでを言います。インシデント数をカウントする為の回答終了の判断は、弊社 基準に基づくものとさせていただきます。一度の問い合わせに関連のない質問が含まれる場合には、複数のインシデントとしてカウントされることがあります。



WebReleaseについてさらに詳しく

オンラインセミナー

随時無料セミナーを開催しています。WebサイトのリニューアルからCMSの導入・入れ替えまで、お客様のプランニングにお役立てください。

セミナーのご案内

<https://www.frameworks.co.jp/seminar/index.html>

WebReleaseに関する情報はWebサイトにも掲載しています。導入のご検討にご利用ください。

製品マニュアル

製品に添付されているマニュアルをWebサイト上でも公開しています。

マニュアル

<https://www.frameworks.co.jp/manual/webrelease2-manual.html>

よく頂くお問い合わせ

製品のライセンスから技術情報まで、WebReleaseに関してよくいただくお問い合わせをQ&A形式でまとめています。

Q&A

<https://www.frameworks.co.jp/qa/index.html>

WebReleaseの導入に関しまして、ご相談・ご質問がございましたらお気軽にお問い合わせください。

- 製品に関するご質問
- 製品の購入について
- オンラインデモのご依頼
- 構築パートナーのご紹介 など

本カタログは同じ内容のPowerPoint版もご用意しております。ご希望のお客様はご遠慮なくお申し付けください。

【お問い合わせ先】

WebRelease 開発元・販売元

株式会社フレームワークスソフトウェア

info@frameworks.co.jp

<https://www.frameworks.co.jp/>

©2000-2024 FrameWorks Software, Inc. All rights reserved.

本カタログに記載の内容は2024年7月現在のver.2.80Hのものです。製品の仕様や価格等は予告なく変更する場合があります。

WebReleaseは株式会社フレームワークスソフトウェアの登録商標です。

その他記載されている会社名、製品名などは該当する各社の商標または登録商標です。



FrameWorks Software

株式会社フレームワークスソフトウェア

〒104-0061 東京都中央区銀座7-15-4 三島ビル4F

<https://www.frameworks.co.jp> info@frameworks.co.jp